



上小小だより

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町 1337-1

HP <http://kamiko-e.saitama-city.ed.jp/> TEL : 048-644-6251

教育目標

- ◎ 心豊かな子
- ◎ 進んで学ぶ子
- ◎ 健康な子

心豊かな子になるように

校長 白石 徳一郎

▶心豊かな子

朝、正門であいさつをしていると、上級生が低学年の児童と手をつないで登校している姿を見ることがあります。ある時は、保護者と一緒に登校した1年生が正門で保護者と離れたくなくて涙ぐんでいる時に、一緒に手をつないで昇降口に行ってくれる上級生がいました。また、ある時は、昇降口で鼻血が出て困っている1年生にティッシュをあげて付き添ってあげている上級生がいました。話を聞いてみると、通学班の班長さんという訳ではなく通りかかった上級生が下級生のお世話を進んで行っているとのことでした。本校の教育目標の一つに「心豊かな子」がありますが、思いやりのある行動を進んでできる子が多いことは素晴らしいと思います。

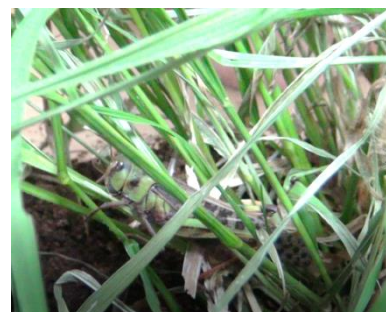
▶身近な生き物の飼育を通して

9月には、生き物の飼育ケースをもって登校する児童も見かけるようになりました。バッタやダンゴムシなどの生き物を飼育する学習の一環だと思います。小さな生き物にも命があり、生き物の気持ちを想像してお世話をすることが大切です。

以前、9月に捕まえたトノサマバッタが、10月、11月と長生きして、12月まで生きていたことがありました。

12月10日

9月22日に捕まえたトノサマバッタ。ずっと元気でしたが、寒くなって弱ってしまいました。手のひらに乗せると、氷のように冷たかったので、手のひらで温めてあげました。暖房のある部屋に入れてあげました。



バッタの飼育はとても簡単です。イネ科の草を食べますので、エノコログサを根っこから土ごと取ってきて、飼育ケースの中に土とエノコログサを入れて、土に水をやり、エノコログサを育てるつもりで飼育環境を作るとバッタも元気に長生きします。バッタがエノコログサの葉っぱを食べているのを見ると、嬉しくなります。エノコログサは週に1回くらい新しいものと交換するといいますが、元気で生きてくれると嬉しいものです。バッタのえさはその辺りに生えているし、かわいいし、長生きするので楽しいと思います。12月に入ると、緑色のエノコログサを探すのが難しくなり、えさがなくなってくるので心配しましたが、やがて寿命を迎えました。



オンブバッタはイネ科の草以外にもキク科、シソ科、ナス科などの様々な植物を食べます。以前、ある1年生が秋に捕まえたオンブバッタに菜っ葉をあげて室内で飼育していたところ、3月まで長生きしたことがありました。ペットのようでとてもかわいかったです。

▶人にやさしく、生き物にもやさしく

困っている人を見かけたら声をかけるということは、生活をしていく上で大切なことだと思います。また、生き物を飼育すると、思いやりや優しい気持ちが育まれると言います。生き物に興味があるお子様には、ぜひ、親御さんと一緒に飼育に挑戦してもらえたらと思います。そして、人にも生き物にもやさしい気持ちをもてる、心豊かな子に育ててほしいと思います。